

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391500127		
法人名	(株)名東介護センター		
事業所名	グループホーム エム・ケア名東 2階		
所在地	愛知県名古屋市長区高間町43		
自己評価作成日	平成31年1月5日	評価結果市町村受理日	平成31年4月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成31年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

すべての職員が、毎月の社内研修を通じて理念である「共に生きる」を共有しており、日々のケアの中で実践している。深い認知症の人でも受け入れをお断りすることなくケアをしているが、全ての職員が社内研修で学んでいるため、実践でも適切に対応できている。健脚な利用者を中心に、頻りに近所の散歩に出掛けている。また、日課としてリラクゼーション体操や立ち上がり訓練を行い季節を感じる機会を設けている。介護士は利用者の個別性をアセスメントし尊厳を守った声掛けを適切に行っている。困難事例等に看護師がスーパーバイザーとして動いており、看取りや重度化した場合も自信をもって介護士は取り組むことができている。全職員の定着率はよく、慣れた職員のケアが安定して提供できている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念である「共に生きる」は、社内研修で毎年扱われ、職員は繰り返し学んでいる。また、新しい職員が増えた時は都度、施設の理念について説明を行い、全ての職員に周知されている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊りに参加したり、近隣の保育園の行事に招待されたりして、何年も交流が続いている。また、散歩中にも地域の住民との挨拶を欠かさず行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設の利用者やその家族に関わらず、随時介護・認知症ケアの経験の深い職員を中心として介護相談を受けつけている。管理者は地域包括の認知症の家族教室の講師を依頼されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、施設の取り組みについて報告を行っている。そこで頂いた意見は施設内で検討し、職員全員が把握できるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	何かあれば市担当者に必ず相談し、指導をうけている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正面玄関は夜間帯以外は施錠をおこなっていない。また、社内研修で「身体拘束」について学び、具体的にはどのような行為がそれにあたるのか、職員は知っている。委員会を立ち上げて3ヶ月に1回、身体拘束について検討や情報交換を行って議事録を全職員に伝達公開している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について社内研修で学ぶ機会があるのはもちろんのこと、職員同士でも気になったことは話し合い、未然に防ぐことができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で成年後見制度を学んでいる。成年後見制度を利用している利用者があるため、関係者と連携をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には管理者から家族へ、要所所で理解の確認を行いながら丁寧な説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、職員は利用者や家族が話しやすい関係づくりに努めており、意見や要望はすぐに共有されている。また、ご意見箱を設置している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で、自由に提案や意見を述べる事ができ、実際に運営に反映された。例として制服の改善がある。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	子育てや家族の介護をしている職員には、勤務時間短縮や働き方の相談などにも乗っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の社内研修や社外の勉強会等で、職員は常に学ぶ機会がある。また、職員の保有資格や経験年数により、キャリアアップの機会がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている、介護や医療の勉強会にはできるかぎり参加している。また、社内研修には本社の職員も参加し、交流の機会となっている。グループホームの管理者や看護師が講師となり法人全体の教育を担っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入にあたっては、必ず自宅に訪問し本人との対話やアセスメントをしっかりと行っている。また、経験豊富な職員が中心となり、本人のことを常に気にかけ、関わっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、センター方式家族版シートを記入してもらい、家族の介護に対する要望を把握することに努めている。また、入居後しばらくは、家族への連絡を密に行い、本人の様子を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族への聞き取りや、それまでに利用していた事業所からの情報を参考にアセスメントを行い、今必要な支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事作業が得意な女性の利用者は、残された力と好みを職員が把握して、自分の「仕事」としてやりがいをもって取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と散歩に出かける利用者もいれば、毎週のように家族宅で孫たちとの時間を過ごしている利用者もある。職員は、そのような時間がより楽しいものとなるように、外出の準備と送迎の支援も行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族以外にも、親しい友人の訪問があったときにはお茶を出し、本人の居室でゆっくりと過ごせるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見て座席を配慮している。レクリエーション時は、特に支援が必要な人の隣に職員が付き、利用者同士が無理なく関わるができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者の葬儀には、毎回多くの職員が参列している。その後も、家族の介護等の相談に乗ったり、新盆に盆提灯を送り、利用者の死後もお付き合いを続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時には必ず本人と対話し、意向を確認している。認知症の程度により、頷きや「はい・いいえ」で答えられるような質問でコミュニケーションをとり、反映させている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前利用していた事業所から情報提供を受けている。また、家族にセンター方式家族版のアセスメントシートの記入をお願いし、本人の生活史を把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式シートを使用し、居室担当者がアセスメントを行っており、本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は計画作成にあたって、担当職員・看護師・夜勤者等の意見を参考にしている。また、職員会議で提案があったケアの方法を、計画書に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は個別記録に1日24時間の様子を詳細に記入し、計画作成担当者は記録を参考にモニタリングを行い、介護計画を作成する際にも役立っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	愛犬家の利用者の入居にあたり、本人の思いを十分に考慮した結果、愛犬とともに入居することとなった。職員のサポートを受け、安定した精神状態で愛犬との暮らしが継続できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事やボランティアの訪問は、利用者の楽しみとなっている。それらに安全に参加できるよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者は月二回、定期的に往診を受けている。それ以外に、訪問歯科を利用している利用者もあり、必要な時に必要な受診ができるよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内に看護師が勤務しており、何かあればすぐに相談できる環境が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をする時にはすみやかに病院へ情報提供を行う。また、入院中には定期的に職員が面会に行き様子を把握することで、退院後の生活に向けて用意をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に必ず、本人の終末期についての思いを家族に確認し、その後も常に本人や家族の思いを聞き取ることに努めている。望む形の終末期を迎えられるように、医師・看護師・介護職員の連携は強い。老化状態を家族や職員が正しく把握することで看取りケアをチームで行うことができている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修で緊急時の対応を学ぶ機会がある。また、報告マニュアルが作成されており、夜間等の急変時にも、職員が落ち着いて対応できるような体制が整えられている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、名東消防署の指導の下、避難訓練を実施している。また、社内研修でも、災害時の対応や心構えを学ぶ機会がある。運営推進会議でも防災訓練を行い、地域の方も参加をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	センター方式アセスメントの家族版を使用して一人ひとりの「好きな言葉・苦手な言葉」などまでを把握して大切にしてきたものを把握し、言葉使いも慎重に行う職員の育成に心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	「おはぎ食べたいな…」とつぶやいた利用者に対し外出と買い物支援を実施するなど、可能な限り利用者の希望を尊重し、本人の気持ちを汲み取る事ができるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望があれば夜間入浴に対応している。また、行きたい時に散歩等の外出に出かけたり、居室でゆっくりと過ごす人もおり、職員は利用者のペースを尊重して支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、その日着る服を一緒に選んだり、化粧をしている利用者には、就寝前にメイク落としの手助けを行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	自己にて歩行できる人は配膳を、車椅子の人は食材の下ごしらえや食器拭きなどそれぞれ得意な事を役割としている。職員が見守りながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人記録に水分量を記入し、把握している。また、それぞれの好みを把握し、好きなものを飲むことができるよう支援している。摂取した一日の水分量を看護師は確認して足りない場合は追加補給の指示を出している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者全員に対して、毎食後の口腔清掃を支援している。磨き残しのある場合は仕上げ磨きを、歯のない人にはスポンジでの清掃を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ誘導を行ってもうまく排泄できず、パット内での失禁が多くなっていた利用者について、職員会議にて話し合い、一人の職員の成功体験を共有し、排泄介助の方法を見直したことにより、トイレでの排泄が増えた。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者は毎日、日課の健康体操を行っている。また、天気の良い日には散歩に出掛けている。おやつに牛乳やバナナを出し、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の希望が強い利用者に対しては、「昨日入ったばかりだから」など否定することなく、ゆとりがある時には週に何回という枠に縛られず、入浴を楽しむことができるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人の体調や体力、習慣に応じて、適宜休息の時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人に合わせた方法で行っている。利用者の変化を見逃さないよう、日常的に観察・記録を徹底し、何かあれば看護師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出が好きな利用者の希望を叶え、近所のスーパーへの買い物支援や喫茶を実施した。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	いつまでも自分の足で歩きたいと希望している利用者には、体調を確認の上日常的に散歩が行えるように支援している。また、夫の法事へ出席する利用者の身支度の支援を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとして施設で預かり、必要時(喫茶や理美容)に使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んでいる利用者があり、使い方や充電などを支援し、家族とのやり取りを見守っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間やトイレ等は清潔に整えられており、室温も適切に保たれている。また、季節ごとに変わる飾りつけにより、季節の移り変わりを感じられるように工夫されている。通年、ユニットでは空気入れ替えをポスターに従い行われ感染症拡大への予防が行われている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	普段は三つのテーブルに別れ、話が合う利用者同士で座り、それぞれに会話を楽しんでいる。また、ソファでゆったりとテレビを鑑賞することもできる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者はそれぞれに馴染みの家具や道具を持ち込んでいる。部屋での休息の時間に音楽CDやラジオを聴いたり、昔の写真を眺めたりと、本人らしく暮らしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレには、文字だけでなくマークの表示もされており、認知症が進行した人にも視覚的に伝わるように配慮がなされている。		